

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200253	事業の開始年月日	平成27年3月1日
		指定年月日	平成27年3月1日
法人名	HITOWAケアサービス株式会社		
事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原		
所在地	(211-0053) 神奈川県川崎市中原区上小田中2-40-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月27日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、家族様が安心・安全にして生活できる事、入居者・職員が共に協力しながら馴染みの関係を保ちつつ、温かい雰囲気でご過ごせる環境作りを心掛けている。出来る事は可能な限りご自身で行ったもらい、出来ない部分だけ職員が支援をしていき、その方の能力を出来る限り維持できるように支援をしている。毎日の日課でもラジオ対応や散歩等取り入れ、外に出る機会を多くしている。また、レクリエーションでもクラブ活動を取り入れ、毎月の趣味活動も楽しめるようになっている。
地域との関わりも近隣保育園との定期交流や地域のカフェへの参加、お花屋さんやコンビニなどとの関わりなど、より身近に存在にもなっている。
今年度からは看取りも実施し、最後まで安心できるホーム「あなたに会えて良かった」と言われるホーム作りを目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年2月26日	評価機関 評価決定日	平成30年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、南武線武蔵新城駅北口から徒歩7、8分の商店街を抜けた住宅地にあります。事業所は3階建てで、2、3階に2ユニットがあります。1階は法人の研修ルームとしていますが、地域の人々にもフロアを使ってもらえるよう少しずつ取り組み始めています。

<優れている点>

昨年度の目標達成計画で、居心地の良い共用空間作りの充実を目指しています。訪問客を迎える玄関の季節感を演出した飾りつけ、情報提供ボード、ユニット廊下などの壁面を利用した入居者の作品や写真展示、リビングの中原文庫コーナーなどに取り組んでいます。玄関フロアに設置した飲み物や菓子の簡易無人販売機は運営推進会議での家族の意見を反映しています。さまざまな工夫から事業所全体が明るく、活気を感じる空間となっています。入居者はその人の力に応じた家事に関わったり、入居者同士一つ的话题でおしゃべりに花が咲いたり、職員とかるた風のゲームをしたりと日々の生活を楽しんでいます。

<工夫点>

毎月、菊湯、生姜湯、ミカン湯など季節に合った「お楽しみ風呂」を提供し、入浴を楽しんでもらっています。また、廊下に写真入りの川崎市内マップを掲示しています。時折、マップを見ながら入居者に話題を提供することで、昔を思い出してもらうように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着性型サービスの意義を職員全員で共有している。また、事業所の理念も意識して、常に入居者の視点を大切にしている。	事業理念、介護理念、ケア方針、介護十訓を定め、入職時研修で全職員に周知しています。また、介護十訓は常に携帯し、確認できるようにしています。ホーム長は、職員の法人の理念の理解と浸透の後に、事業所理念を作ろうと検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣保育園との定期交流や地域のお祭り参加、散歩等を通して馴染みの関係作りを行って要る。 地域包括支援センターとも連携を取り、近隣の方の情報や運営推進会議の参加も行ってもらっている	近隣の保育園や宅配飲料の保育室の子どもと定期的な交流をしています。地域の認知症カフェに出掛けることもあります。地域との関係を広げていくため、地域包括支援センターとの連携を深めながら事業所1階フロアの地域開放に向け取り組み始めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連絡を取り、入居者の相談を行って要る。 また、川崎市の介護フェアへの参加行い、グループホームの紹介、介護相談や認知症カフェの参加にて地域住民からの認知症への相談の場も設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームの運営状況を伝えると共に、ご家族からも要望などを伺いながらサービス向上へ向けて取り組んでいる	運営推進会議には本人および家族を中心に、会議の内容によって薬剤師、訪問歯科医、訪問マッサージ師などの参加を得て2ヶ月ごとに開催しています。会議での意見や要望を取り入れて飲料無人販売機の設置や、日常的な散歩を増やすことに繋げています。	地域の住民代表（町内会役員、民生委員、大家など）の参加を得て、地域に開かれた会議の開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターや福祉事務所、川崎市介護相談員等と連携を図っている	入居者の担当ケースワーカーとは特に連携を図っています。昨年12月から川崎市介護相談員を受け入れていきます。相談員が聞いた利用者からの話をホーム長が記録に残しています。区のグループホーム協議会に加入し、意見や情報交換をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関については設備上オートロックになっているが、行動の自由を妨げる言動・行動が内容に日々のケアに努めている。身体拘束への研修会も行い職員への理解も深める努力をしている。	身体拘束をしないケアを目指し、定期的に研修を行い、職員の理解促進を図っています。ホーム長はスピーチロックを特に意識して指導しています。建物の構造上の理由と利用者の安全確保を最優先に、玄関はオートロックとしていますが、入居者が外出の際は見守り同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の芽を生まない為に虐待が起こるメカニズムや要因について実例を通して施設内研修を行い、意識向上を図っています。又、日々虐待が見過ごされる事がないような環境作りと状況把握に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全員が権利擁護について理解をしているかという点と不十分である。生活保護の方や後見制度については今後も今後も職場内で研修をしていき理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご契約時はなるべく、分かりやすい言葉でゆっくり説明を心掛けている。また、費用面や退去時についても都度、説明を行い納得してもらうようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られる家族とお話し機会を多く持ち要望に出来だけ答えられるようにしている。あまり面会にお越しできない家族にも都度、電話やメール等で連絡を行い、連絡を取るようにしている。	面会や運営推進会議など、様々な意見や要望を聞いて運営の参考にしています。毎月の家族向けの報告・連絡に個人別の写真を添付して近況を知らせています。面会や会議に参加できない家族には電話やメールで連絡・報告をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やケアカンファレンスを毎月行い、職員の意見を聞く機会を作っている。又、日ごろから不安や悩みがないか必ず、意識的に全職員とコミュニケーションを図っている。	ホーム長は、年2回の個人面談や、毎月の全体会議、フロア会議などから職員の意見や要望を聞き、可能なことは運営に反映するようにしています。また、職員は、ストレスチェックシステムを利用できる仕組みになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修や施設内研修を行っている。また、人事考課での面談を2回/年行うとともに健康診断実施等の際も体調面の面談も行い、疲労やストレスへの配慮も行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の会議の際での研修会や外部、内部研修への参加を積極的に行い、人材育成にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	区のGH協議会への参加を行い、情報交換などを行って要る。また、CMの協議会へも入会し情報共有も行って要る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居等の相談に来た際、まず、その方の生活状況等をお聞きし、悩みの受容・共感に努めている。GHでの生活が今必要なのかを一緒に考え、必要に応じて入居の相談を行って要る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が出来るだけ心配がないように困っている事、不安な事をしっかり確認するようにしている。 また、事業所が協力できる事、出来ないこともお伝えし、協力が出来ない場合、どのような方向にしていけばよいかも一緒に考えている、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様の悩みや不安、してほしい生活等のニーズをつかみ、家族が安心できるようにこまめにご家族様へ連絡をしていく事で信頼関係の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事は入居者に積極的に行ってもらおう。 入居者の出来る事を最大限に発揮してもらい、一方的な介護にならないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の小さな変化も出来るだけ多くご家族に伝えるように心がけている。 また、日々のお過ごしの様子を毎月、入居者ごと写真を送付して様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力も得ながら、定期的なお墓参りへの外出、外泊等も行っていく必要がある。 近隣の保育園へも行き来し馴染みの関係が途切れに様になっている。	家族へ写真入りの年賀状を出しています。家族の協力を得て、定期的に以前の自宅に戻ったり、墓参りをしたりしています。廊下に川崎市内の写真入りのマップを掲示し、話題を提供することで、昔を思い出してもらおうように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が話しやすいように職員が調整を行ったり、他フロとも交流が出来る様に月何度か関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去しても関係性を断ち切らないように、いつでも相談が出来る様に声掛けを行って要る。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の歴活歴を大切に常にご利用者視点でのケアを意識して支援を心掛けている。職員都合ではなく入居者の想いを把握し大切にしている。	入居時に「入居者個人票」に記入して貰い、居室担当を決めてアセスメントシートで生活歴などを把握しています。職員との会話のほか、入居者同士の会話や互いを助け合う場面から、思いや本音を拾うこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの情報や日々の会話、ご家族等のお話から生活歴・習慣など把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人に合った支援を心掛け、入居者のできる事・できない事を把握し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やケアカンファレンス等でモニタリングと介護計画を進めている。	施設サービス計画書、日課計画表、介護日誌、夜勤日誌を参考に、担当者会議、カンファレンス、モニタリングを通して新しい介護サービス計画を作成しています。時には家族が会議に参加することもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな情報も気づきと考え、介護記録に記載し、情報の共有に努め介護計画に反映をはせている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に行って要る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員からの参加や訪問看護師や薬局・訪問歯科などが行事や運営推進会議に参加をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診の際、情報を密に行い、適切な医療が受けれるようにしている。	入居全員が事業所の協力医にかかりつけ医を切り替えています。協力医の専門外の受診時は基本家族対応を依頼していますが、状況によっては職員が付き添っています。入居者の医療情報は「受診報告書」で共有する仕組みになっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護を利用し、健康チェックをとって入居者の体調管理を共有している。 看取りの対応も協力的にしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院を連絡を密のして、スムーズな退院、退院後の支援を相談して病院との信頼関係作りも務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の指針を定め、ご家族に説明を行い安心して暮らせる体制の構築に努めている。	入居時に事業所の「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいた説明をし、最初に家族の意向を確認しています。その後、段階を踏まえながら方針を共有し、支援しています。職員は会議の中で看取りケアについて話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急マニュアルの整備、並びに勉強会、状況判断ができるように日々、指導や情報の共有に努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練の実施を行い災害対策を講じている。 地域との協力体制は今後、課題も残る	年に2回、夜間想定を含む自主訓練を行っています。入居者も非常階段を降りる訓練に参加しています。備蓄はリストをつくり保管管理をしています。地域との協力体制は今後の課題としていますが、地域に住む職員が駆けつける体制があります。	地域との協力体制について、事業所として取り組めることから検討することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の尊厳を大切にして、人生の先輩として声掛けをしている。また、プライバシーの配慮にも気を使い他者に把握できないよう声掛けや対応をしている。	接遇、ホスピタリティ研修を定期的実施し、職員の人権への意識を高めたり、認知症理解に努めています。職員は入居者の羞恥心に配慮し、「トイレ」など直接的な言葉を使わない、利用者の前で他の入居者の話をしないなど、心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の量や食べたいものなど入居者に確認を取りながら日々の支援に取り組んでいる。 郷土料理や毎週の手作りメニューなど		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常の入居者視点を意識して、職員都合にならずに、一人一人にあったペースで支援をしている。 お席も好きなように座ってもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の馴染みの衣類をお持ちいただき、外出の際は好みに応じた衣類の着用を心掛けている。 職員のユニフォームは一律ものになっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいもの、季節に応じた食材。メニューを取り入れるようにしている。	業者から届いた食材の仕分け、料理の盛り付け、食器拭きなど入居者の力に合わせて関わってもらっています。週に1度手作り献立の日を設け、入居者のリクエストを聞いています。行事食、手作りおやつ作り、郷土食など食を楽しむ機会を多く作っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェックシートを使い、食事・水分量の把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを行うとともに訪問歯科を利用し日々口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄、自然排尿・排便を心掛け排泄介助を行う。	日中はトイレでの排泄を基本とし、入居者の様子を見ながら声かけ、誘導など、自然の排尿、排便を促すよう支援しています。夜間は安眠を優先した支援に切り替える場合もあります。職員の適切な支援で、排泄リズムが整い、改善に向かっている事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェックシートを使い、排便量の確認をしている。出来るだけ自然排便を促すと共に、状況に合わせて下剤の服用を行い便秘の解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日は決まってしまうが、入浴の順番は都度、入居者に確認を取りながら入っていただいている。 毎月「お楽しみ風呂」の提供	入浴は週2回です。順番はその都度、本人に確認しています。浴室、脱衣室を十分に暖め、ヒートショックに配慮しています。毎月、菊湯、生姜湯、ミカン湯など季節に合った「お楽しみ風呂」を提供し、楽しんでもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムに合わせ、その方、その方に合わせた入眠時間の確保に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を入居者ごとに分けて見やすいよう、把握しやすいようにしている。主治医、薬剤師と相談し必要のない内服薬は減らすようにも取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器服やお花の水やりなど、入居者ごとに役割を持ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な散歩や買い物などをしている	日常的に近隣の二ヶ領用水などを散歩しています。レクリエーションとして桜、紫陽花など季節ごとの花鑑賞、イチゴ狩り、工場見学、市民ミュージアムなどに出掛けています。ラーメンを希望する入居者に職員が付き添い、食べに行くこともしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭については、預り金がない為行っていないが、買い物の際、支払いをお願いする時もある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーを配慮しながら電話が出来る対応や手紙が受け取れるようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	地域や季節を感じ取れるような掲示物などの工夫をしている。	昨年度の目標達成計画から共用空間作りの充実を目指しています。玄関の季節を感じる飾りつけ、入居者の作品や写真展示、中原文庫など工夫しています。入居者同士一つの話題でおしゃべりに花が咲いたり、職員とかるた風のゲームをしたり、リビングで寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室の為、一人に慣れる環境面は整っている。また、廊下などにも掲示物を多くし、図書も多く取り入れるようにして、一人での空間作りにも配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても、不自由がないようにご家庭で使っていたタンスや食器を使っただけ使ったもの使用をいただいている。	仏壇、使い慣れたタンス、家族の写真、自作の油絵作品など本人が大切にしている品々を持ち込んで、居心地よい居室になっています。職員は利用者の状況に応じて掃除や整理整頓などの支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	掲示物の工夫や福祉用具の活用など、障害があっても自立して生活できるように支援している。		

事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着性型サービスの意義を職員全員で共有している。また、事業所の理念も意識して、常に入居者の視点を大切にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣保育園との定期交流や地域のお祭り参加、散歩等を通して馴染みの関係作りを行って要る。 地域包括支援センターとも連携を取り、近隣の方の情報や運営推進会議の参加も行ってもらっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連絡を取り、入居者の相談を行って要る。 また、川崎市の介護フェアへの参加行い、グループホームの紹介、介護相談や認知症カフェの参加にて地域住民からの認知症への相談の場も設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームの運営状況を伝えると共に、ご家族からも要望などを伺いながらサービス向上へ向けて取り組んでいる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターや福祉事務所、川崎市介護相談員等と連携を図っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関については設備上オートロックになっているが、行動の自由を妨げる言動・行動が内容に日々のケアに努めている。身体拘束への研修会も行い職員への理解も深める努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の芽を生まない為に虐待が起こるメカニズムや要因について実例を通して施設内研修を行い、意識向上を図っています。又、日々虐待が見過ごされる事がないような環境作りと状況把握に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全員が権利擁護について理解をしているかという点と不十分である。生活保護の方や後見制度については今後も今後も職場内で研修をしていき理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご契約時はなるべく、分かりやすい言葉でゆっくり説明を心掛けている。また、費用面や退去時についても都度、説明を行い納得してもらうようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られる家族とお話し機会を多く持ち要望に出来だけ答えられるようにしている。あまり面会にお越しできない家族にも都度、電話やメール等で連絡を行い、連絡を取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やケアカンファレンスを毎月行い、職員の意見を聞く機会を作っている。又、日ごろから不安や悩みがないか必ず、意識的に全職員とコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修や施設内研修を行っている。また、人事考課での面談を2回/年行うとともに健康診断実施等の際も体調面の面談も行い、疲労やストレスへの配慮も行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の会議の際での研修会や外部、内部研修への参加を積極的に行い、人材育成にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	区のGH協議会への参加を行い、情報交換などを行って要る。また、CMの協議会へも入会し情報共有も行って要る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居等の相談に来た際、まず、その方の生活状況等をお聞きし、悩みの受容・共感に努めている。GHでの生活が今必要なのかを一緒に考え、必要に応じて入居の相談を行って要る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が出来るだけ心配がないように困っている事、不安な事をしっかり確認するようにしている。 また、事業所が協力できる事、出来ないこともお伝えし、協力が出来ない場合、どのような方向にしていけばよいかも一緒に考えている、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様の悩みや不安、してほしい生活等のニーズをつかみ、家族が安心できるようにこまめにご家族様へ連絡をしていく事で信頼関係の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事は入居者に積極的に行ってもらおう。 入居者の出来る事を最大限に發揮してもらい、一方的な介護にならないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の小さな変化も出来るだけ多くご家族に伝えるように心がけている。 また、日々のお過ごしの様子を毎月、入居者ごと写真を送付して様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力も得ながら、定期的なお墓参りへの外出、外泊等も行つて要る。 近隣の保育園へも行き来し馴染みの関係が途切れに様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が話しやすいように職員が調整を行ったり、他フロとも交流が出来る様に月何度か関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去しても関係性を断ち切らないように、いつでも相談が出来る様に声掛けを行って要る。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の歴活歴を大切にしながら常に利用者視点でのケアを意識して支援を心掛けている。職員都合ではなく入居者の想いを把握し大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの情報や日々の会話、ご家族等のお話から生活歴・習慣など把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人に合った支援を心掛け、入居者のできる事・できない事を把握し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やケアカンファレンス等でモニタリングと介護計画を進めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな情報も気づきと考へ、介護記録に記載し、情報の共有に努め介護計画に反映をはせている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に行って要る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員からの参加や訪問看護師や薬局・訪問歯科などが行事や運営推進会議に参加をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診の際、情報を密に行い、適切な医療が受けれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護を利用し、健康チェックをとして入居者の体調管理を共有している。 看取りの対応も協力的にしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院を連絡を密のして、スムーズな退院、退院後の支援を相談して病院との信頼関係作りも務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の指針を定め、ご家族に説明を行い安心して暮らせる体制の構築に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急マニュアルの整備、並びに勉強会、状況判断ができるように日々、指導や情報の共有に努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練の実施を行い災害対策を講じている。 地域との協力体制は今後、課題も残る		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の尊厳を大切にして、人生の先輩として声掛けをしている。また、プライバシーの配慮にも気を使い他者に把握できないよう声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の量や食べたいものなど入居者に確認を取りながら日々の支援に取り組んでいる。 郷土料理や毎週の手作りメニューなど		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常の入居者視点を意識して、職員都合にならずに、一人一人にあったペースで支援をしている。 お席も好きなように座ってもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の馴染みの衣類をお持ちいただき、外出の際は好みに応じた衣類の着用を心掛けている。 職員のユニフォームは一律ものになっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいもの、季節に応じた食材。メニューを取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェックシートを使い、食事・水分量の把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを行うとともに訪問歯科を利用し日々口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄、自然排尿・排便を心掛け排泄介助を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェックシートを使い、排便量の確認をしている。出来るだけ自然排便を促すと共に、状況に合わせて下剤の服用を行い便秘の解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日は決まってしまうが、入浴の順番は都度、入居者に確認を取りながら入っていただいている。 毎月「お楽しみ風呂」の提供		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムに合わせ、その方、その方に合わせた入眠時間の確保に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を入居者ごとに分けて見やすいよう、把握しやすいようにしている。主治医、薬剤師と相談し必要のない内服薬は減らすようにも取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器服やお花の水やりなど、入居者ごとに役割を持ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な散歩や買い物などを行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭については、預り金がない為行っていないが、買い物の際、支払いをお願いする時もある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーを配慮しながら電話が出来る対応や手紙が受け取れるようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	地域や季節を感じ取れるような掲示物などの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室の為、一人に慣れる環境面は整っている。また、廊下などにも掲示物を多くし、図書も多く取り入れるようにして、一人での空間作りにも配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても、不自由がないようにご家庭で使っていたタンスや食器を使っただけ使ったもの使用をいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	掲示物の工夫や福祉用具の活用など、障害があっても自立して生活できるように支援している。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 イリーゼグループホーム川崎中原

作成日： 平成30年4月24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・事業所と地域の付き合い 以前よりも地域からの認知度、地域交流の回数は多くなってきているが、定期的な交流やご近所的なつながりは今後も重ねる必要性を感じる	地域の方との交流を深め、地域行事への参加や日常的な交流活動を行っていく。 ホームに何気なく遊びに来れる環境を作っていく	町内会との交流はまだ出来ていないが、地域包括との連携は出来てきている。地域包括との関わりあいから、民生委員、町内会と交流を広げ信頼関係の構築を図る。 近隣の方と、お互いが行き来できる関係作りを行う。	12ヶ月
2	4	・運営推進会議を活かした取組み 定期的な運営推進会議を開催しているが、地域の方の参加が少ない	町内会長、民生委員、地域包括支援センターの参加を集い、地域の理解と支援される場としていく	運営推進会議参加に対して、地域包括の参加は増えてきているが、町内会、民生委員、方々の参加までは至っていない。その為、参加を呼びかけ、外部の協力も得る。	6ヶ月
3	52	・居心地の良い共有空間作り 定期的な行事や日常の様子、クラブ活動等の充実は増えてきている。写真、作品を掲示し過ごしやすい環境作りも整いつつある。今後も継続的な取り組みを行っていく	施設全体が明るく、活気のある空間作り、生活しやすい環境を整備する。 入居者、職員ともに助け合い、共同生活介護できる環境を目指す。	入居者一人一人が過ごしやすいように居室やフロア的环境整備を行う。 入居者ごとに担当を作り、馴染みの関係、信頼関係を深めていき、お互いに何でも言える雰囲気を提供する。その為にも尊厳を忘れず、接遇面も配慮しながら個々に合わせた支援をしていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月